

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
ハーベスト医療福祉専門学校		平成 20 年 3 月 31 日		杉本健三		〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町 91-6 (電話) 079-224-1777	
設置者名		設立年月日		代表者名		所在地	
学校法人摺河学園		昭和 23 年 3 月 31 日		摺河美代子		〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町 83 (電話) 079-224-1711	
目的		福祉に携わる人間として必要な教養を身につけ、自律の精神に基づいたすぐれた人格形成を促し、介護に関する深い知識、確かな技術、心豊かな人間関係を築くことができる専門職業人として、地域社会に貢献できる資質の高い介護福祉士を養成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼夜別)	全課程の修了 に必要な総授 業時数又は総 単位数	専門士の付与	高度専門士の 付与	
教育・ 社会福 祉	社会福 祉専門 課程	介護福祉学科	2 年 (昼)	2,115 単位時間	平成 21 年 2 月 27 日付文部科 学省告示第 21 号	-	
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技	
		750 単位時間	915 単位時間	-	450 単位時間	-	
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数	
80 人		76 人		3 人		12 人	
学期制度	■前期：4 月 1 日から 9 月 30 日 ■後期：10 月 1 日から 3 月 31 日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法について： 各科目所定の講義を 2/3 以上出席しており、成績が 60 点以上の者を単位認定している。		
長期休み	■学年始め：4 月 1 日 ■夏 季：4 週間 ■冬 季：2 週間 ■学 年 末：3 月 31 日			卒業・進級 条件	①進級条件としては、当該年度のすべての科目を修得すること。 ②卒業の条件はすべての科目を修得すること。		
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応： 保護者と連携、補講			課外活動	■課外活動の種類： ■サークル活動：無		

主な就職先	<p>■主な就職先、業界： 高齢者福祉施設、障害者自立支援施設</p> <p>■就職率<sup>※1</sup>：100%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup>： 100%</p> <p>(平成26年度卒業者に関する平成27年5月時点の情報)</p>	主な資格 ・検定	介護福祉士
中途退学者の現状	<p>■中途退学者：7名</p> <p>■中退率：8.6%</p> <p>平成26年4月1日在学者：81名（平成26年4月入学者を含む） 平成27年3月31日在学者：74名（平成27年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由：専門職像との不適合</p> <p>■中退防止のための取り組み：専門職像の理解を促すきめ細やかな教育相談</p>		
ホームページ	URL：http://www.harvest-school.com/		

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

## 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

実習先や業界団体の役職員、専門の講師を教育課程編成委員として委嘱し、実践的な職業教育の質を保証する。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 27 年 5 月 1 日現在

名 前	所 属
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授 (学校経営)
下山 治男	兵庫県理学療法士会前中播磨ブロック長
岩橋 由梨	有限会社ハーティ (訪問看護ステーション) 法人本部部長代理
田中 洋三	姫路市介護サービス第三者評価機構 理事長
吉田 弘子	ヘルパーステーションだいたう 介護福祉士
萩原 勝義	姫路市保育協会 会長
正木 竜哉	瑠璃保育所 所長
福田 忠浩	姫路薬剤師会 副会長
岸田 憲治	ゴダイ株式会社 (ドラッグストア) 開発本部長兼経営企画室長
杉本 健三	ハーベスト医療福祉専門学校 校長
堀 健児	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼理学療法学科長
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長
北野 実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長
西村 彰範	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長
小寺 正人	ハーベスト医療福祉専門学校 教務部長

(開催日時)

第 1 回 平成 26 年 10 月 22 日 9:00~10:05

第 2 回 平成 27 年 2 月 6 日 9:00~10:00

## 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

- ①事前訪問・実習中の巡回指導訪問・就職依頼等企業訪問の機会を捉え、実習生の現状から知識・技術・姿勢等の情報交換を密に行い、実習生の課題等を明確にする。
- ②実習生の課題の内容分析を行い、必要な事項を授業内容に反映させる。
- ③法制度の改正に伴い現場に対応できる授業の工夫や改善について検討する。

科目名	科目概要	連携企業等
介護実習Ⅰ	個別ケアの理解、利用者・家族とのコミュニケーションの構築、介護技術等を理解させる。	特別養護老人ホーム姫路・勝原ホーム 自立支援施設三愛園他
介護実習Ⅱ	個別ケアのための介護計画の作成、評価等、介護課程の実践力を習得させる。	特別養護老人ホーム泉の杜 老人保健施設ゆめさき他
総合演習 (実習事前指導)	実習の事前指導や特別講座に企業等の職員 (卒業生) に講師依頼をし、現場の職員と学生の交流をとおして、卒業後の介護福祉士像を明確にする。	こすもす倶楽部他

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本校の教育理念を具現化し、その職責を遂行するために行う。職員研修は、新任・中堅・管理職研修からなる。

### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 27 年 7 月 1 日現在

名 前	所 属
廣岡 徹	兵庫教育大学 客員教授 (学校経営)
岩橋 由梨	有限会社ハーティ (訪問看護ステーション) 法人本部部長代理
田中 洋三	姫路市介護サービス第三者評価機構 理事長
萩原 勝義	姫路市保育協会 会長
岸田 憲治	ゴダイ株式会社開発本部長兼経営企画室長
安積 秀幸	兵庫県播磨高等学校 副校長
平 勝彦	南駅前町 自治会長
牧鶴美智代	保護者
高田 明則	同窓会長 理学療法士
杉本 健三	ハーベスト医療福祉専門学校 校長
堀 健児	ハーベスト医療福祉専門学校 副校長
西村 彰範	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼医薬健康学科長
北浜 伸介	ハーベスト医療福祉専門学校 教頭兼理学療法学科長
益永 万里	ハーベスト医療福祉専門学校 介護福祉学科長
北野実千代	ハーベスト医療福祉専門学校 リトミック保育学科長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.harvest-school.com/>

- ・企業等との指導者会議で、教育課程表などとともに配付する。
- ・学生募集対象高校の進路担当部に、募集資料とともに配付する。

### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.harvest-school.com/>

## 授業科目等の概要

(社会福祉専門課程介護福祉学科) 平成 27 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技
○			人間の理解 1	「人間」の理解を基本として、人間の尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基本能力を養う。	1 前	30	2	○		
○			人間の理解 2	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報の伝達に必要なコミュニケーション能力を養う。	2 後	30	2	○		
○			社会の理解 I	個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。	1 後	30	2	○		
○			社会の理解 II	我が国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する。 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎知識を習得する。	2 通	60	4	○		
○			情報処理	情報化社会におけるパソコンの有用な使い方とワード、エクセル、パワーポイントの基本操作を学び、今後のレポート作成やその他の文書・資料作成などに役立てる。	1 後	30	1		○	

○			ホスピタリティ・デザイン学	学生・社会人としての礼儀作法を身につける。基本の礼法、学生としての心得、人としてのマナー、社会の中でのエチケット、職場でのエチケットなど、基本の動作やしぐさの大切さと重要性を理解し、実際に正しく行えるようにする。	1 前	30	1	○		
○			余暇活動	介護を必要とする人の理解と支援や援助に関わるための人間形成とコミュニケーション技術の学習と実践力を習得する。 介護における人間関係づくりとコミュニケーションの意義・目的・役割を理解する。	1 前	30	1	○		
○			介護の基本 I	介護を取り巻く情勢について理解し、社会が求める介護福祉士像を明確にし、目標達成のための過程を理解する。 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉え、介護における安全やチームケアについて理解する。	1 前	30	2	○		
○			介護の基本 II	介護を取り巻く情勢について理解し、社会が求める介護福祉士像を明確にし、目標達成のための過程を理解する。 「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに「介護を必要とする人」を生活の観点から捉え、介護における安全やチームケアについて理解する。	1 通	60	4	○		
○			介護の基本 III	介護従事者に求められる倫理や人間の尊厳の保持と自立・自介護実践における連携の重要性、また介護における事故防止と安全対策、感染予防対策、従事者の安全管理について理解する。	2 前	30	2	○		

○			介護の基本 Ⅳ（リハビリ テーション）	自立に向けたリハビリテーショ ンの在り方と、介護福祉士とし ての支援の在り方を理解する。	2 後	30	1		○	
○			介護の基本 Ⅴ	地域社会における介護の在り方 と実践方法について理解する。	2 後	30	2	○		
○			コミュニケ ーション技 術	介護を必要とする人の理解や援 助的關係、援助的コミュニケー ーションについて理解すると共 に、利用者や利用者家族、ある いは多職種協働におけるコミュ ニケーション力を養う。	1 後	60	2		○	
○			生活支援技 術 1	尊厳の保持の観点から、ICF の 視点にもとづくアセスメントを 行い、どのような状態であつて も、その人の自立・自律を尊重 し、潜在能力を引き出したり、 見守ることも含めた適切な介護 技術を用いて、生活支援が安全 に援助できる知識や技術につい て習得する。	1 通	60	2		○	
○			生活支援技 術 2	尊厳の保持の観点から、ICF の 視点にもとづくアセスメントを 行い、どのような状態であつて も、その人の自立・自律を尊重 し、潜在能力を引き出したり、 見守ることも含めた適切な介護 技術を用いて、生活支援が安全 に援助できる知識や技術につい て習得する。	1 前	120	4		○	
○			生活支援技 術 3	利用者の状況（障害）に応じた、 その人の自立・自律を尊重し、 潜在能力を引き出したり、見守 ることも含めた適切な介護技術 を用いて、生活支援が安全に援 助できる知識や技術について習 得する。	1 後	30	I		○	
○			生活支援技 術 4	利用者の尊厳、医療との連携、 終末期の身体状況（障害）に応 じた生活の整え方や家族支援の 在り方、また急変時の救急法に ついて理解する。	2 後	30	2	○		

○		生活支援技術5	高齢や障害に応じた自立・自律や社会参加の方法を考え、具体的な生活支援技術を学ぶ。	1通	60	4	○		
○		生活支援技術6	事例のアセスメントを通して、尊厳ある個別支援技術を学ぶ。	2前	30	1		○	
○		介護過程Ⅰ	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開する方法を理解する。	1後	60	2		○	
○		介護過程Ⅱ	事例にもとづいて、ICFにもとづいたアセスメントを行い、利用者のニーズを抽出し、実践・評価・再アセスメント等、介護過程の展開の実際を理解する。	2前	60	2		○	
○		介護過程Ⅲ	介護の現場でのケアプラン（介護サービス計画）の立案とチームアプローチの実際について理解する。	2後	30	2	○		



○			総合演習 I	<p>実習の効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認、記録の書き方、職員との連絡・相談・報告の方法や施設等のオリエンテーションを行い、施設の理解を深める。実習後の事例報告会等を行い、他施設の特徴や役割を理解する。実習に必要な知識技術、介護過程の展開の能力等において、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習をし、実習と組み合わせる。</p>	1 通	60	2		○	
○			総合演習 II	<p>実習の効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認、記録の書き方、職員との連絡・相談・報告の方法や施設等のオリエンテーションを行い、施設の理解を深める。実習後の事例報告会等を行い、他施設の特徴や役割を理解する。実習に必要な知識技術、介護過程の展開の能力等において、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習をし、実習と組み合わせる。</p>	2 通	60	2		○	

○			<p>介護実習 I</p>	<p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p>	1 後	240	6			○
○			<p>介護実習 II</p>	<p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p>	2 後	210	4			○

○			発達と老化の理解	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。	1通	60	4	○		
○			認知症の理解	認知症に関する基礎的知識を習得とともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2通	60	4	○		
○			障害の理解	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得とともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず、家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	2通	60	4	○		
○			心と体のしくみ1	こころとからだについて、解剖生理学の知識を習得し、疾患の理解に結びつける。	1通	60	4	○		
○			心と体のしくみ2	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する	1通	60	4	○		
○			心と体のしくみ3	介護福祉士に必要な医学的知識を理解し、介護ケアの根拠を理解する。	2通	60	4	○		
○			シルバーリトミック(ブックトークとの選択)	音楽と身体の変現を通して音楽の楽しさを感じ、心身の活性化を図ることを目指す指導方法を習得する。	1,2通	60	2	○		
○			介護ブックトーク(シルバーリトミックとの選択)	ブックトークの意義を学び、高齢者の生活を豊かにするため、回想法や、適切な本の楽しみの提供するための技術を習得する。	1,2通	60	2	○		

○			医療的ケア Ⅰ	医療的ケアの必要性や身体の観察、感染予防（清潔操作）を学び、経管栄養法（経鼻・口腔・胃ろう）、たん吸引（鼻口腔吸引、気管カテーテル内吸引）の方法を理解する。	2 前	70	4	○		
○			医療的ケア Ⅱ	清潔操作、経管栄養法（経鼻・口腔・胃ろう）、たん吸引（鼻口腔吸引、気管カテーテル内吸引）を人体模型を使っての演習にて技術の習得を目指す。	2 後	60	2		○	
○			ライフケア	「利用者に寄り添う」技術の習得を目指す。ハートケア・フェイスケア・ハンドケア・ネイルケア・スマイルウォーキング・サウンドケア・ヒヤリングノートケの基本的な技術を習得する。（検定制度）	1 通	30	1			○
○			国語表現法	適切に文章を書き・話すために必要な語彙・語句・文法を学びながら、文章作成の基本を習得する。	1 前	30	2	○		
合 計					37 科目	2,140 単位時間				